

ポイント

- ◆ 売上高対前年同期比は-10.1と9.4低下
製造業・卸売業は増加
- ◆ 売上の見通しはやや悪化
来期の売上（対前年同期比）が減少するとの回答が7.1%増加
- ◆ 材料、仕入価格の上昇が建設、製造、卸売で経営課題のトップ
引き続き需要の停滞もサービス業を除く4業種で上位

□改善した前回調査から一転、オミクロン株や原材料の高騰等の影響と 思われる厳しい結果

売上高対前年同期比（全産業）は、-10.1と前回調査（-0.7）から9.4低下。産業別でみると、製造業、卸売業は上昇となっているが、同産業でも業種によってはばらつきのある結果となっている。銅器・漆器については、製造、卸売の両方で他の業種は上昇する一方で低下している。

来期の売上見通しは、減少との回答が7.1増加（悪化）した。サービス業以外の産業は、増加・不変の合計が減少を上回っているが、来期の見通しについては厳しい見方が広がっていると感じられる。

採算性は、0.9低下し-32.0となり小幅ながら3期連続の悪化となった。前回から改善した産業は売上高と同様に製造業と卸売業である。

従業員水準は、5期連続不足傾向（0を下回る）となった。卸売業では不足・充足が均衡（0）したが、依然として人材の確保が多くの企業にとっては課題であることがわかる。

直面する経営課題では、前回に引き続き建設業、製造業、卸売業で、材料価格、仕入単価の上昇がトップとなったほか、需要の停滞もサービス業を除く産業で上位に挙げられている。

□コロナ禍に立ち向かう取組み

令和2年4月7日、我が国で初の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出された。相前後して、多くの企業が、影響の大小や時期、分野などの違いはあっても、新型コロナウイルスの影響を受け、感染対策や顧客への対応などに苦慮したのではないだろうか。2年が経過しようとしているが厳しい状況は続き、出口はいまだに見えない。

このような中、業種によっては新たな需要に対応してより業績を伸ばす企業も見られる他、業態の変更や働き方の改革などに取り組む企業もみられる。日本政策金融公庫では、コロナ禍を乗り切ろうと様々なアイデアや工夫を重ね、企業として持続的な効果をあげている取組み事例を掲載しており、市内企業も紹介されている。（<https://www.jfc.go.jp/n/corona-jirei/>）

コロナ禍に立ち向かう事業者の取組み	
思い × 提供	北越Northern Films / 京都人 / 親子電気鉄道 / ツルミ印刷 / 今代製菓 / シヤサイバ / 豊はやし / 京都味家近所 / 西川 / 兵庫 / 兵庫 / 中島 / 中島
サービス × 提供	三浦食品 / アーランドクラフト / 西田製作所 / 和道プロジェクト / 大塚製菓 / マシンメジャリック / トナリ / NAGASAKI
技術 × アイデア	スリーエスバティ / テクノデザイン / WOTA / 中野 / 高橋 / 中野 / 中野
既存事業 × 数分野	小野野真 / 和心 / 和心 / ROSE LABO / ミナチン / 花岡 / 花岡 / 花岡
新規 × 協賛投資	オーエイト / 高橋ビル / 高橋ビル / 高橋ビル / 高橋ビル / 高橋ビル

< 日本政策金融公庫HPより >

3月30日からは、富山県が新型コロナの影響により売上が減少した県内事業者を対象に、ビヨンドコロナを見据えた成長・発展を図るため、意欲的な取組みを幅広く後押しする「富山県中小企業ビヨンドコロナ補助金」が募集が開始される。（<https://www.tonio.or.jp/info/20220301-bc19/>）また、コロナ対策として無利息、据え置きなどの融資制度を利用した企業も多いのではないかと。3年間の据え置きを利用した場合、早ければ来年にも返済が始まる。今般のビヨンドコロナ補助金をはじめ国の小規模事業者持続化補助金、事業再構築補助金、ものづくり補助金、事業復活支援金など、様々な支援策を活用し、企業の体質強化、生産性向上などに取り組んではどうか。



富山県中小企業ビヨンドコロナ補助金

新型コロナウイルスの影響により売上が減少した事業者の皆様を対象に、ビヨンドコロナを見据えた成長・発展を図るための **DXや販路開拓、環境改善等による新ビジネスの創出など意欲的な取組み**を幅広く支援します。

1. 補助対象者

新型コロナウイルスの影響を受け、売上が減少した、県内に主たる事業所を置く（本社登記が県内）

①中小企業者、小規模事業者 ②NPO法人、医療法人 ③組合（中小企業等経営強化法に基づくもの）

※個人事業主、フリーランスも利用可能。みなし大企業、暴力団関係者、性風俗営業等事業者を除く。

2. 補助対象事業・補助率・補助額

次に掲げる事業。適格性①～④は組合に可

※R3年度までに「富山県中小企業バイバル補助金」及び「ミニバイバル補助金」、「IoT・AI活用ステップアップ補助金」で採択された企業も申請が可能です。

原則として**県内事業所への売上拡大を図るため、県民として県内事業所への売上拡大を図るため、県民として県内事業所への売上拡大を図るため**

原則として県内事業所への売上拡大を図るため、県民として県内事業所への売上拡大を図るため、県民として県内事業所への売上拡大を図るため

事業区分	事業内容(例)	補助率・補助額
①デジタル化	・非接触型ビジネスの展開 (ECサイト作成、キャッシュレス対応、IoT技術導入費等) ・テレワーク・ビデオ会議システム等のリモート化 (PC・タブレット購入、クラウド活用費等)	(補助率) 中小・組合 2/3 小規模 3/4
②販路開拓・売上向上	・新たな販売チャネル展開 (ECモール出店(登録料)、ECサイト作成、WEB広告費等) ・テイクアウト・デリバリー対応 (保管冷凍冷蔵設備、キッチンカー導入経費等) ・オンライン商談会・見本市参加(参加料、撮影費、通信費等)	(補助額) 上限 100万円 下限 10万円

通常枠

< 富山県中小企業ビヨンドコロナ補助金 >

高岡商工会議所地域経済動向調査

(令和3年度 第4四半期・令和4年1月～令和4年3月)

調査月 令和4年1月～令和4年3月 (基準日3月1日)

対 象 高岡市内事業所 332社

回答数 149社 (回収率 44.9%)

回答業種内訳及び構成比

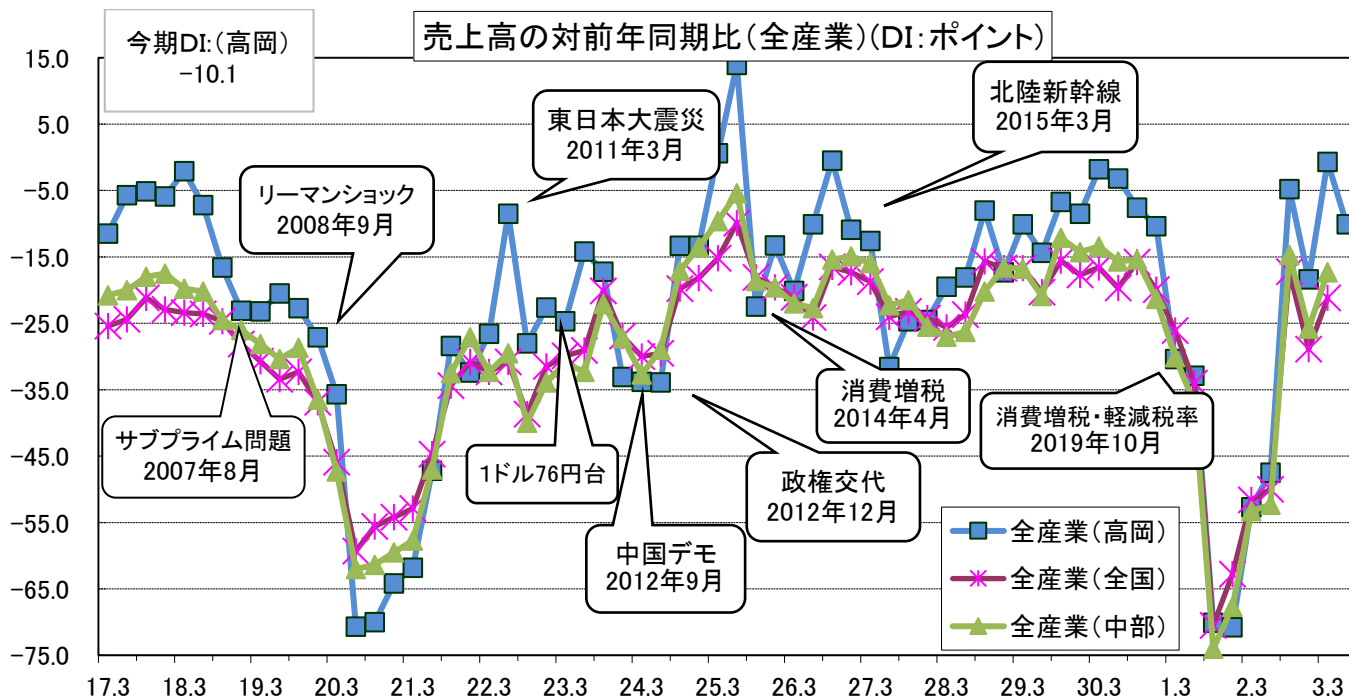
	建 設	製 造	卸 売	小 売	サービス	全 体
回答数	18社	70社	22社	19社	20社	149社
%	12.1%	47.0%	14.8%	12.8%	13.4%	100.0%

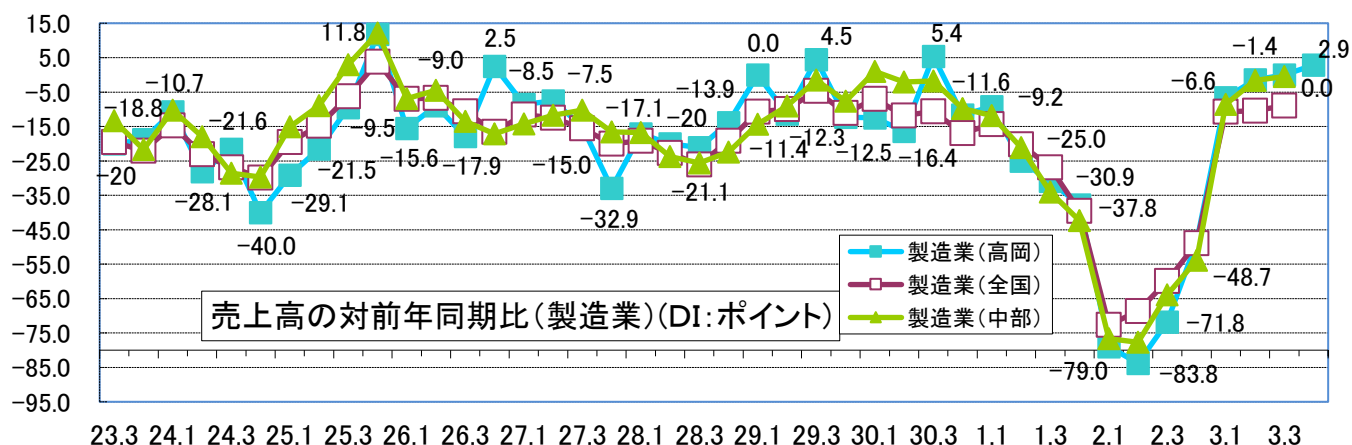
■1.売上高の対前年同期比

(%) (ポイント)

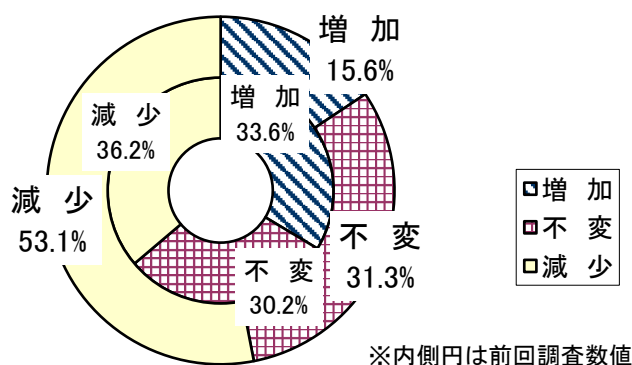
※全国、中部DIは前回調査分

		増 加	不 変	減 少	DI	前回DI	変 化	全国DI
業	建設業	11.1	22.2	66.7	-55.6	-17.6	-38.0	-17.5
	総合・土木	18.2	18.2	63.6	-45.5	-20.0	-25.5	-
	建築・職別工事	0.0	28.6	71.4	-71.4	-14.3	-57.1	-
	製造業	36.2	30.4	33.3	2.9	0.0	2.9	-8.9
	銅器・漆器	14.3	21.4	57.1	-42.9	-17.6	-25.3	-
	アルミ・機械・化学・電気	47.4	28.9	23.7	23.7	20.5	3.2	-
	食品・繊維・紙・他	18.8	43.8	37.5	-18.8	-40.0	21.3	-
種	卸売業	40.9	27.3	31.8	9.1	0.0	9.1	-16.4
	銅器・漆器	20.0	20.0	60.0	-40.0	-20.0	-20.0	-
	その他	43.8	31.3	25.0	18.8	0.0	18.8	-
	小売業	15.8	26.3	57.9	-42.1	-31.3	-10.8	-33.4
	食品・衣料・雑貨	0.0	28.6	71.4	-71.4	-16.7	-54.7	-
	電化製品・文化品・他	25.0	25.0	50.0	-25.0	-40.0	15.0	-
	サービス業	30.0	35.0	35.0	-5.0	33.3	-38.3	-23.9
	全産業	30.4	29.1	40.5	-10.1	-0.7	-9.4	-21.2

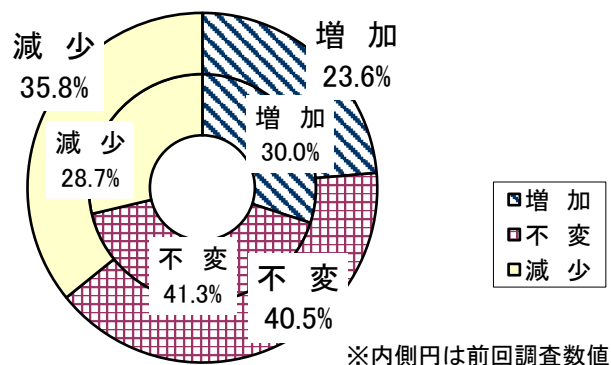




■ 2-1. 売上高の対前期比



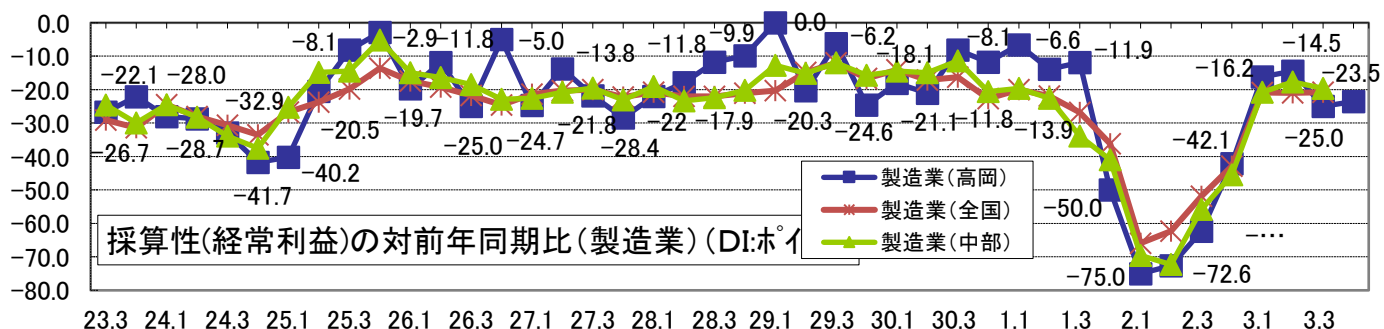
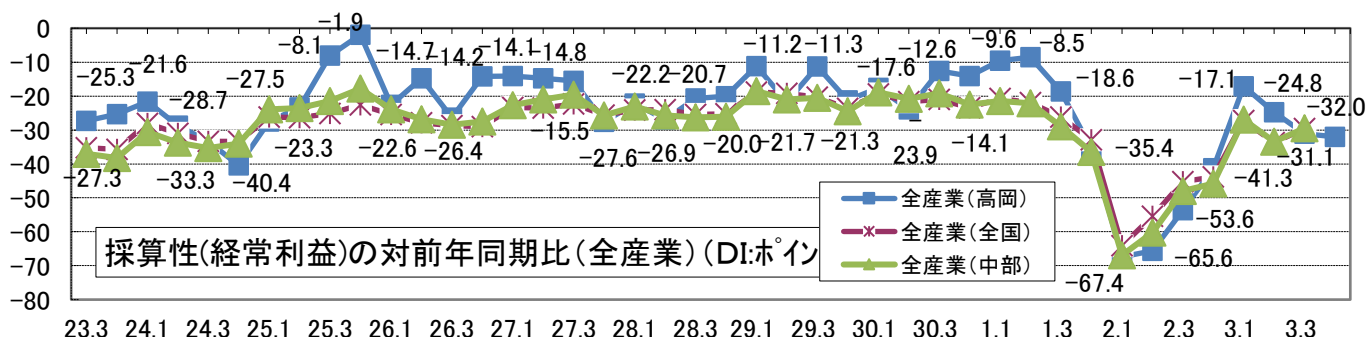
■ 2-2. 売上高の来期見通し(対前年同期比)



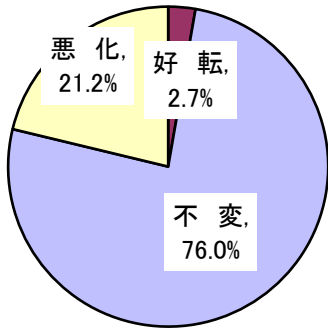
■ 3. 採算性(経常利益)の対前年同期比(%) (ポイント)

※全国DIは前回調査分

		好転	不変	悪化	DI	前回DI	変化	全国DI
業種	建設業	5.6	44.4	50.0	-44.4	-41.2	-3.2	-25.1
	製造業	19.1	38.2	42.6	-23.5	-25.0	1.5	-20.8
	卸売業	13.6	45.5	40.9	-27.3	-48.0	20.7	-22.7
	小売業	0.0	42.1	57.9	-57.9	-43.8	-14.1	-39.8
	サービス業	10.0	50.0	40.0	-30.0	-14.3	-15.7	-31.5
	全産業	12.9	42.2	44.9	-32.0	-31.1	-0.9	-29.6



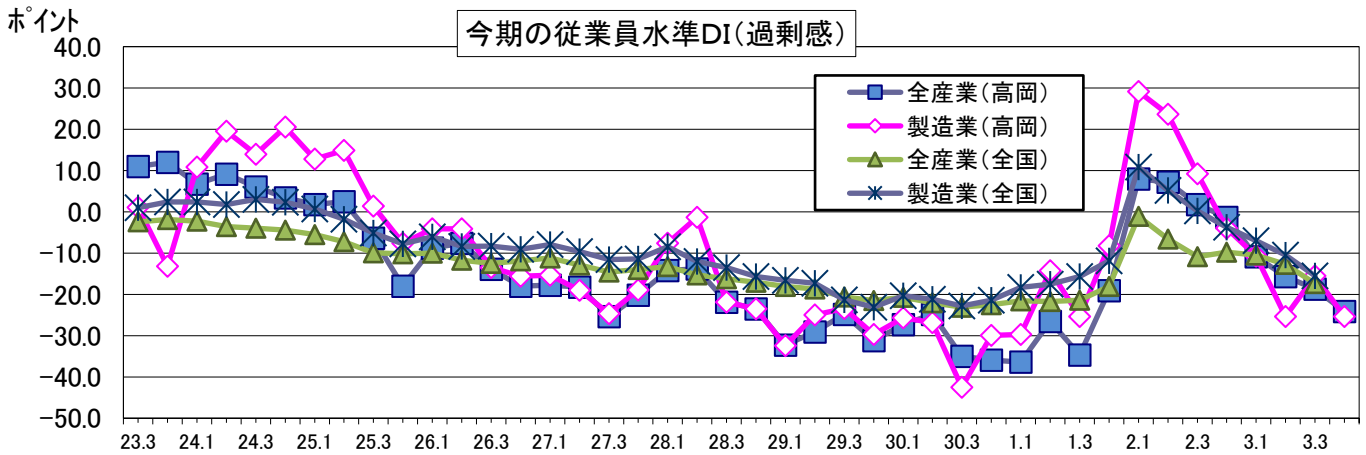
■ 4. 資金繰り(前年同期比)



資金繰り(前年同期比)の推移

	好転	悪化	DI
3.4	2.7%	21.2%	-18.5
3.3	6.7%	18.0%	-11.3
3.2	11.3%	19.4%	-8.1
3.1	12.7%	11.5%	1.2
2.4	5.7%	22.9%	-17.2
2.3	5.5%	28.7%	-23.2
2.2	2.0%	29.4%	-27.5
2.1	3.4%	38.6%	-35.2
1.4	5.8%	19.5%	-13.6

■ 5. 今期の従業員水準(今期の過剰感)



従業員水準(過剰感)の推移

(ポイント)

	R2.1	R2.2	R2.3	R2.4	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4
建設業	-61.1	-31.3	-37.5	-18.8	-33.3	-47.4	-52.9	-44.4
製造業	29.1	23.6	9.2	-4.0	-10.7	-25.4	-15.5	-25.4
卸売業	16.1	0.0	20.0	14.8	10.7	16.7	-3.8	0.0
小売業	4.8	5.6	-11.8	5.9	-15.8	5.6	-13.3	-11.1
サービス業	-16.0	-10.0	-7.7	-4.3	-16.0	-20.0	-23.8	-40.0
全産業	8.0	7.2	1.8	-1.3	-10.9	-15.7	-18.7	-24.1

※数字が小さいほど不足感が強い
複数回答

■ 6. 直面している経営上の問題(各業種の回答上位)

建設業	①材料価格の上昇	15.7%
	②従業員の確保難	13.7%
	③民間需要の停滞	11.8%
製造業	①原材料価格の上昇	24.3%
	②従業員の確保難	17.5%
	③需要の停滞	12.2%
卸売業	①仕入単価の上昇	28.1%
	②需要の停滞	18.8%
	②人件費以外の経費の増加	9.4%
小売業	①需要の停滞	18.5%
	②消費者ニーズの変化への対応	16.7%
	③人件費以外の経費の増加	11.1%
サービス業	①利用者ニーズの変化への対応	15.6%
	①人件費の増加	15.6%
	①材料等仕入単価の上昇	15.6%